

# 童遊

---

望み望まれて此処に  
愛でたきものは此れに有  
り  
夢と現と交えては  
幻の国  
幻想郷 に、遊ぶがいい

---

此處有求有應  
此處有喜愛之物  
  
夢境與現世交匯時  
可於幻想鄉玩

空を征く者がいる  
怪異を祓う者がいる  
其れ等を望む子等がいる  
御伽噺を耳にして  
思い巡らす其れ以上に  
生きる幻想が其処に居る

---

有空中飛的  
有驅散怪異的  
亦有期望她們的  
耳中聽聞怪誕軼事  
心中所思更爲怪異  
幻想中的生活正在彼處

何時の世も  
愛でたきものは  
往來の  
童遊の  
中にこそ有れ

---

凡世間  
喜愛之物  
往來的  
孩童遊戲  
亦正在此處

華咲  
真優雅、舞うたれば  
華の都は、此れに有り  
夢と現と交えては  
今日も変わりなく町角に

花開  
當真優雅地翩翩起舞  
花都亦在此處  
夢境與現世交匯時  
今日一如既往街頭巷角

華散

昔話

口伝伝承 を祀れば

愛でたきものは此れに有  
り

夢と現と交えては

幻の国

幻想郷 に、遊ぶがいい

花落

祭念起過往軼事

此處有喜愛之物

夢境與現世交匯時

可於幻想鄉玩

空中踊る者がいる

怪異を使役う者がいる

其れ等を真似る子等が  
いる

拙いものと思えども

その手に握る其れこそが  
何時か幻想を生んでいく

有空中起舞的

有使役怪異的

亦有模仿她們的

回憶起舊時糗事

手中緊握的正是

何時幻想生於其中

さあ詠え

舞い踊りては

華やかに

己が描く

童遊

命名決闘 を

來唱吧

隨歌起舞的

繁花爛漫

自己描繪

孩童遊戲

命名決闘

彩風

彩風

真優雅、舞うたれば  
風の神も、愛でたからむ  
夢と現と交えては  
明日の来る事を疑わず

當真優雅地翩翩起舞  
風之神靈亦必欣然  
夢境與現世交匯時  
明日之事毫不存疑

微風

夢

名を其処に、込め入れば  
道往く者も、愛でたから  
む

夢と現と交えては

幻の国

幻想郷に、遊ぶがいい

微風

夢

以己之名混於彼處  
往來之人亦必欣然

夢境與現世交匯時  
可於幻想鄉玩

伝説の夢の国に  
生きて、生きて、生きて  
明日行く町角は片隅  
其処彼処に  
耳を澄ませば  
その息遣いを聞く  
空も、地の底も  
星の水際も全てに  
移ろい逝く季節の  
その狭間でさえも  
望み望まれて其処に有り

傳説中夢境的國度  
但願生於其中  
明日所往街頭巷尾  
於之此處彼處  
如若清耳靜心  
傾聽那氣息  
空中亦，地底亦  
繁星的海岸亦全部  
交替過往的季節  
就算其中的間隙  
亦在此處有求有應

華咲

まこと優雅、舞うたれば  
華の都は、此れに有り  
夢と現と交えては  
人も妖も諸共に

花開

當真優雅地翩翩起舞  
花之都亦在此處  
夢境與現世交匯時  
人亦，妖亦，其餘亦

---

華散

そして日も、暮れぬれば  
躍り疲れて家路なり  
夢と現と交えては  
幻の国  
幻想郷 に、遊ぶがいい

花落

隨之日亦落時  
舞盡成歸路  
夢境與現世交匯時  
可於幻想郷玩

---

華咲

そして又も、町角に  
童遊の変わらずに  
夢と現と交えては  
幻の国  
幻想郷 は此れに有り

花開

隨之又在巷角  
往日無異的孩童遊戲  
夢境與現世交匯時  
此處有幻想郷

---

華咲

望み望まれて此処に  
愛でたきものは此れに有り  
り  
夢と現と交えては

花開

此處有求有應  
此處有喜愛之物  
夢境與現世交匯時  
可於幻想郷玩

幻想郷 に、遊ぶがいい

上面這個原文寫法用了很多 当て字 ，表意而不表音，如果想對着唱的話可以參考下面這個版本：

華咲

望み望まれてここに  
めでたきものはこれにあり  
夢と現（うつ）と交えては  
幻の国に、遊ぶがいい

空を征（ゆ）くものがある  
怪異を祓うものがある  
それらを望む子らがいる  
御伽噺（おとぎばなし）を耳にして  
思い巡（めぐ）らす其れ以上に  
生きる幻想が其処に居る

いつの世も  
めでたきものは  
往来の  
童遊（わらべあそび）の  
なかにこそあれ

華咲

まこと優雅、舞うたれば  
華の都は、これにあり  
夢と現と交えては  
今日も変わりなく町角に

華散

昔話（むかしばなし）を祀（まつ）れば  
めでたきものはこれにあり  
夢と現と交えては  
幻の国に、遊ぶがいい

空で踊るものがある  
怪異を使役うものがある  
それらを真似る子らがある  
拙（つたな）いものと思えども  
その手に握る其れこそが  
いつか幻想を生んでいく

さあ詠え  
舞い踊りては  
華やかに  
己が描く  
童遊（わらべあそび）を

彩風（さやかぜ）  
まこと優雅、舞うたれば  
風の神も、めでたからむ  
夢と現と交えては  
明日の来る事を疑わず

微風（そのかぜ）  
夢（ゆめ）をそこに、込め入れば

道往く者も、めでたからむ  
夢と現と交えては  
幻の国に、遊ぶがいい

伝説の夢の国に  
生きて、生きて、生きて  
明日行く町角は片隅  
そこかしこに  
耳を澄ませば  
その息遣いを聞く  
空も、地の底も  
星の水際（みぎわ）も全てに  
移ろい逝く季節の  
その狭間（はざま）でさえも  
望み望まれてそこにあり

華咲  
まこと優雅、舞うたれば  
華の都は、これにあり  
夢と現と交えては  
人も妖（あやかし）も諸共（もろとも）に

華散  
そして日も、暮れぬれば  
躍り疲れて家路なり  
夢と現と交えては  
幻の国に、遊ぶがいい



華咲

そしてまたも、町角に

童遊（わらべあそび）の変わらずに

夢と現と交えては

幻の国はこれにあり

華咲

望み望まれてここに

めでたきものはこれにあり

夢と現と交えては

幻の国に、遊ぶがいい